



報告 生活困窮者問題シンポジウム

ひきこもり支援を考える 県と済生会が連携した 初のシンポ

三重県済生会 常務理事 **大橋範秀**

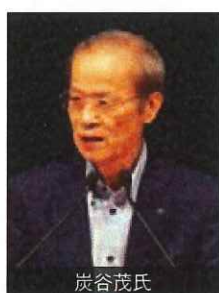
第11回済生会生活困窮者問題シンポジウムが9月3日に、三重県のシンフォニアテクノロジーズホール伊勢で開催されました。今回は三重県の「ひきこもり支援フォーラム」とコラボ。



一見勝之氏

新たなシンポジウムの企画に市民と県内の医療、福祉・行政・教育関係者と本会職員を含め約500人が参加しました。

はじめに、一見勝之・三重県知事、炭谷茂・済生会理事長、鈴木健一・伊勢市長が開会の挨拶



炭谷茂氏

を、一般社団法人ひきこもりUXX会議代表理事・林恭子氏が、「ひきこもりの真実～ひきこもる心を理解する～」と題し講演しました。

林氏は自らの不登校やひきこもりの経験をふまえて、「ひきこもりの問題の本質は、生きづらさであり、支援のゴールは就労や自立ではない。ひきこもりは生きるための行為で、居場所とは心理的安全が確保され人や外界に慣れる場所。支援者は当事者を社会に適応させるのではなく、対等な立場で一緒にいるための、まなざしと姿勢」が



鈴木健一氏

大切」と訴えかけました。

第二部は三重県こども・福祉部地域共生社会推進監の葛山美香氏を司会に、林氏と県内でひきこもり支援に取り組む4人のパネリストが「ひきこもりから私たちの未来を考える」をテーマに意見を交わしました。

地域で活動する側として、いなべ笑かどサロン世話人の鈴木洋子氏は、当事者が互いに支えあって楽しい時間をすごしてもらおう居場所づくりの取り組み。伊勢志摩不登校ひきこもりを考



伊勢神宮の玄関口・宇治山田駅前にあるシンポジウム会場



済生会と県職員が一緒に受付を担当



伊勢神宮の宇治橋



伊勢神宮内宮前のメインストリート「おはらい町」

伊勢市健康福祉部福祉総合支援センターよりそいの小川直紀センター長補佐は子どもから高齢者までの総合的な福祉の支援拠点での取り組み。伊勢市ひきこ

ち一人ひとりが多様性について考えないといけない。そういう社会はひきこもりの人だけでなく誰もが暮らしやすい社会である」と締めくくりました。



林恭子氏

える会世話人の濱口拓氏は家族を孤立させずに居場所をつくることで子どもの家庭環境を変えていく活動を紹介しました。行政等による支援の側として、

もり地域支援センターつむぎの竹澤尚美センター長は心に不安を抱える人のためのフリースペースや本人の働きたいという思いにこたえる中間的就労支援取り組みを紹介しました。

林氏は支援する側に対して「本人に会うことを目標にしないほしい」「親と子どもをつなぐ通訳になってほしい」と言及し、あらゆる人たちが連携して支えていくプラットフォームの必要性を指摘しました。また、「誰もが安心して暮らせる社会の実現には私



諸岡芳人氏

最後に諸岡芳人・三重県済生会支部長が「済生会としても今回のシンポジウムを生かして皆さんと協働して前に進みたい」と挨拶をしました。



左から竹澤尚美氏、小川直紀氏、濱口拓氏、鈴木洋子氏